

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
商学部	商学科	夜・通信	16	48	0	64	13	
	経営学科	夜・通信			2	66	13	
人文学部	社会学科	夜・通信		0	14	30	13	
	英語英文学科	夜・通信			6	22	13	
	教育学科	夜・通信			18	34	13	
法学部	法律学科	夜・通信		0	16	32	13	
経済科学部	現代経済学科	夜・通信		6	0	22	13	
	経済情報学科	夜・通信			0	22	13	
人間環境学部	人間環境学科	夜・通信		0	10	26	13	
健康科学部	心理学科	夜・通信		0	26	42	13	
	健康栄養学科	夜・通信			41	57	13	
国際コミュニケーション学部	国際政治学科	夜・通信		15	2	33	13	
	地域行政学科	夜・通信			14	45	13	
(備考) 人文学部社会学科は2024年度より開設								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

実務経験のある教員等による授業科目の一覧はWebサイトに一覧表を掲載 http://www.shudo-u.ac.jp/information/kouhyou/education.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園 Web サイト上で公表 http://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/Officer_list.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	現職なし (前職：広島県議会議員)	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	法人業務の総理
非常勤	(株)広重代表取締役社長	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現職なし (前職：広島ガス(株)代表取 締役)	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	法人通常業務の遂 行
非常勤	現職なし	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現職なし (前職：(株)もみじ銀行頭 取)	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)福屋代表取締役会長	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(株)中国新聞社特別顧問	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	法人通常業務の遂 行

非常勤	広島電鉄(株)代表取締役会長	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	オタフクホールディングス (株)会長	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	法人通常業務の遂 行
非常勤	ひろぎん証券(株)取締役	2025. 6. 25 ～2028 年度 定時評議員 会終結の時	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、開講する全ての科目について、担当教員にシラバスの作成を義務付けている。シラバスの作成方法や記載する事項を示した文書に、記載見本を付けて、担当教員に配付している。</p> <p>記載必須事項は、授業題目、授業の概要、学修の到達目標、授業計画(授業回数分すべてを記載)、授業外学習の課題、履修上の注意事項、成績評価の方法・基準、オフィスアワー及び質問・相談への対応である。また、テキストや参考文献は任意記載事項であるが、少なくともどちらか一方を記載するようにしている。実務経験のある教員による授業科目については、授業の概要において授業に関連する実務経験を記載している。</p> <p>シラバスの記載内容のチェックは各学部等において実施するとともに、シラバスはWebサイト上で公表している。なお、例年、次年度のシラバスは毎年3月下旬に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	Webサイト上で公表 http://syllabus.shudo-u.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修意欲は、出席状況を中心に把握している。大・中教室にはICカードリーダーを設置し出席調査を行っており、語学など少人数の科目においては、担当教員が直接出席を管理している。</p> <p>成績評価の方法及び成績評価基準については「広島修道大学及び広島修道大学大学院における成績評価に関する規程」において以下の通り定めており、それらに基づき厳格かつ適正に単位認定を行っている。</p> <p>成績評価の方法は、試験、授業中に実施する小テスト、提出物・成果物(レポートなど)、プレゼンテーション・コンピュータの操作、対話・口頭試問、その他、シラバスに明記した方法などがあり、すべての科目においてあらかじめシラバスに明示することにより学生に周知している。定期試験及び追試験については別途「広島修道大学及び広島修道大学大学院試験細則」を定め、試験期間を定めて実施している。</p> <p>成績評価は100点満点の素点で行い、素点をAA、A、B、C、Dの5段階の評語で表し、Dを不合格、成績評価が不能の場合はXとしている。5段階の基準は、100～90点：AA、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：Dである。</p> <p>なお、成績評価方法や成績評価基準については、成績発表ガイダンスにおいても学生に周知している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
成績評価において、客観的指標としてGPAを設定している。
GPAは素点(評価点)をもとに次のように計算している。

$GP = (\text{評価点} - 55) / 10$ (ただし、 $GP < 0.5$ は $GP = 0.0$ とする)

$GPA = (\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) / \text{履修科目単位数の総和}$

学生は、Webシステム「学習カルテ (ShuR)」(ポートフォリオ)で自分の単位修得状況や成績、GPAをいつでも確認できる。また、GPA活用のため、GPAの見方について次のような情報をWebサイトに提供している。

【累積GPAの見方】

- 3.5以上 : 履修登録した授業の達成目標に90%以上到達しています。
 - 3.5未満～2.5 : 履修登録した授業の達成目標に80%以上90%未満到達しています。
 - 2.5未満～1.5 : 履修登録した授業の達成目標に70%以上80%未満到達しています。
 - 1.5未満～0.5 : 履修登録した授業の達成目標に60%以上70%未満到達しています。
 - 0.5未満 : 履修登録した授業の達成目標に60%未満しか到達していません。
- また、成績の分布状況については、教授会等で資料を配布し把握している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/kouhyou/education.html
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
大学全体の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を下記のとおり定め、Web サイトにおいて公表している。

広島修道大学は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」となることを教育目標とします。この目標のもと、以下の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協創力」を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識・技能

地球的視野を持つために、幅広い知識と各専門分野の専門的知識を修得し、その知識を応用、実践するための技能を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

持続的な社会の創出に貢献するために、修得した知識と技能を基礎に、自ら課題を発見し、課題解決の方向性を思考・判断することができる。また、自らの考えや提案を他者に伝え、他者の考えを受容し、円滑なコミュニケーションを行うための表現力を身につけている。

3. 協創力

自らが生きる地域社会に貢献するために、主体性を持って多様な人々と協力し価値を創造する意欲と実行力を身につけている。

この方針のもと、学部・学科ごとに特色を反映した学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を定めている。各学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシー及び卒業要件については『学修ガイドブック』において公表し、周知を図っている。卒業認定にあたっては、卒業要件を学則及び各学部履修細則で定め、修得単位及び在学期間に基づき、教授会において卒業判定を実施し、卒業認定者を決定している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	Web サイト上で公開 https://www.shudo- u.ac.jp/information/policy/archive/univ2025.html
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	広島修道大学
設置者名	学校法人 修道学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/financial.html
収支計算書又は損益計算書	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/financial.html
財産目録	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/financial.html
事業報告書	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/index.html
監事による監査報告(書)	Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/gakuen/publicinfo/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2025年度広島修道大学事業計画 対象年度:2025年度)
公表方法:Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/kouhyou/planreport.html
中長期計画(名称:中期事業計画 対象年度:2025年度~2029年度)
公表方法:Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/kouhyou/planreport.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/quality/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:Web サイト上で公開 https://www.shudo-u.ac.jp/information/quality/evaluation.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 商学部／人文学部／法学部／経済科学部／人間環境学部／健康科学部／ 国際コミュニティ学部
教育研究上の目的（公表方法：Web サイト上で公開） 〈教育研究上の目的と教育方針〉 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html
(概要) 広島修道大学は、広島藩の講学所を淵源とする修道学園が設置する大学であり、「道 を修める」という建学の精神に基づき、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献 できる人材の養成」を理念、教育目標として掲げています。 本学の「修道」という名は、中国の古典『中庸』の「道を修めるこれを教えという」に 由来します。「道を修める」とは「学びの道を整える」営みであり、その実践を本学の 教育として位置づけます。そしてこの教育する力こそを「修道力」として定義します。 本学は、グローバル化及び人口減少が進んでいく現状を理解し、地域社会と連携しな がら、この目標を実現できるように努めます。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：Web サイト上で公開） (概要) 〈教育研究上の目的と教育方針〉 https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html ●広島修道大学の教育方針（3つのポリシー） https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/univ.html ●商学部（商学科／経営学科）の教育方針（3つのポリシー） https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html ●人文学部（社会学科／教育学科／英語英文学科）の教育方針（3つのポリシー） https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html ●法学部（法律学科）の教育方針（3つのポリシー） https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html ●経済科学部（現代経済学科／経済情報学科）の教育方針（3つのポリシー） https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html ●人間環境学部（人間環境学科）の教育方針（3つのポリシー） https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html ●健康科学部（心理学科／健康栄養学科）の教育方針（3つのポリシー） https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html ●国際コミュニティ学部（国際政治学科／地域行政学科）の教育方針 （3つのポリシー） https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html 広島修道大学は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献で きる人材」となることを教育目標とします。この目標のもと、以下の「知識・技能」 「思考力・判断力・表現力」「協創力」を学士課程教育において身につけるべき学士力 として明示します。 1. 知識・技能

地球的視野を持つために、幅広い知識と各専門分野の専門的知識を修得し、その知識を応用、実践するための技能を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

持続的な社会の創出に貢献するために、修得した知識と技能を基礎に、自ら課題を発見し、課題解決の方向性を思考・判断することができる。また、自らの考えや提案を他者に伝え、他者の考えを受容し、円滑なコミュニケーションを行うための表現力を身につけている。

3. 協創力

自らが生きる地域社会に貢献するために、主体性を持って多様な人々と協力し価値を創造する意欲と実行力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイト上で公表）

（概要）

〈教育研究上の目的と教育方針〉

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 広島修道大学の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/univ.html>

● 商学部（商学科／経営学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 人文学部（社会学科／教育学科／英語英文学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 法学部（法律学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 経済科学部（現代経済学科／経済情報学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 人間環境学部（人間環境学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 健康科学部（心理学科／健康栄養学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 国際コミュニティ学部（国際政治学科／地域行政学科）の教育方針
（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

広島修道大学は、全学のディプロマ・ポリシーに基づいて、下記の方針に従って教育課程を編成し実施します。

1. 全学共通科目においては、全学部の学生を対象に4年間の大学教育を通じて、豊かな人間性を養っていくための土台となる幅広い教養を身につけることを目的として、地域理解科目、国際理解科目、一般教養科目、スポーツ・健康科目、キャリアデザイン科目、データサイエンス科目を配置します。また、国際理解科目には「留学」「言語文化」「言語」が、一般教養科目には「人間を理解する」「社会を理解する」「自然を理解する」がそれぞれ含まれています。

2. 各学部・学科の主専攻科目においては、各学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づき、それぞれの専門分野についての主体的な学びを促し、専攻分野を段階的かつ体系的に学べるように授業科目を配置します。

3. 修道スペシャルプログラム（Shudo Special Program）は、全学部の学生を対象に社会的ニーズ及び教育環境の変化に応えると同時に、多様な学生の可能性をさらに伸ばすためのプログラムとして位置づけ、学生自身が所属する学科の主専攻科目、全学共通科目などの枠を越え、特定のテーマに関連する授業科目から構成します。

4. 教育課程における各授業科目については、十分な学修時間の確保、厳格な成績評価、到達目標の明確化などを通じて質の保証を担保するとともに、広島修道大学アセスメントプランに基づき教育課程全体の評価・検証を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web サイト上で公表）

（概要）

〈教育研究上の目的と教育方針〉

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 広島修道大学の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/univ.html>

● 商学部（商学科／経営学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 人文学部（社会学科／教育学科／英語英文学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 法学部（法律学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 経済科学部（現代経済学科／経済情報学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 人間環境学部（人間環境学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 健康科学部（心理学科／健康栄養学科）の教育方針（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

● 国際コミュニティ学部（国際政治学科／地域行政学科）の教育方針

（3つのポリシー）

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/policy/index.html>

広島修道大学は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」となることを教育目標としています。この目標のもと、次のような人を広く受け入れます。

1. 大学での学びに必要な基礎学力を有する人
2. 地域・国際社会における課題を自ら発見し解決していく意欲がある人
3. 主体性を持って多様な人々と協力し価値を創造する意欲がある人
4. 持続可能な社会の創出に積極的に貢献する意欲がある人

各学部・学科では、これらの人を受け入れるため、入学者に求める能力やその評価方法を、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と関連付けて明示し、合否判定にあたっては多面的・総合的に資質や意欲を評価・判定します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
商学部	—	23人	10人	2人	1人	0人	36人
人文学部	—	31人	9人	1人	0人	0人	41人
法学部	—	12人	9人	1人	2人	0人	24人
経済科学部	—	15人	11人	3人	1人	0人	30人
人間環境学部	—	14人	3人	1人	2人	0人	20人
健康科学部	—	19人	3人	0人	2人	4人	28人
国際コミュニティ学部	—	14人	6人	1人	0人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
—			332人				332人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：教員一覧・教員データベースにて公表 (https://www.shudo-u.ac.jp/research/kyouindb.html)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2024年度実績							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート（学生による授業評価）を年2回実施。 ・学部・学科単位での公開授業実施。（参観した教職員からアドバイスシートによって意見聴取を行い、実施教員及び参観教員の授業改善の参考としている。） ・各学部、研究科ごとにFD推進委員会開催。 ・全学対象FD・SD研修会を2回開催。（その他に学部・学科・専攻単位での研究会や講演会も開催。） ・各学部、研究科単位でFD研修会を開催。 ・教員評価の自己評価項目に教育意識の高揚を図るため、授業改善に関する項目を設けている。 ・FD・SDニューズレターの発行。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
商学部	295人	364人	123.4%	1,180人	1,346人	114.1%	0人	0人
人文学部	295人	380人	128.8%	1,130人	1,280人	113.3%	0人	0人
法学部	195人	246人	126.2%	780人	892人	114.4%	0人	1人
経済科学部	230人	275人	119.6%	920人	1,049人	114.0%	0人	0人
人間環境学部	115人	120人	104.3%	460人	492人	107.0%	0人	1人
健康科学部	160人	187人	116.9%	640人	709人	110.8%	0人	0人
国際コミュニティ学部	150人	188人	125.3%	600人	700人	116.7%	0人	0人
合計	1,440人	1,760人	122.2%	5,710人	6,468人	113.3%	0人	2人
(備考) 編入学については、学生数に欠員があるときに認める。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
商学部	302人 (100%)	1人 (0.3%)	273人 (90.4%)	28人 (9.3%)
人文学部	262人 (100%)	12人 (4.6%)	223人 (85.1%)	27人 (10.3%)
法学部	201人 (100%)	4人 (2.0%)	183人 (91.0%)	14人 (7.0%)
経済科学部	237人 (100%)	2人 (0.8%)	209人 (88.2%)	26人 (11.0%)
人間環境学部	102人 (100%)	0人 (0.0%)	89人 (87.3%)	13人 (12.7%)
健康科学部	152人 (100%)	4人 (2.6%)	136人 (89.5%)	12人 (7.9%)
国際コミュニ ティ学部	133人 (100%)	1人 (0.8%)	119人 (89.4%)	13人 (9.8%)
合計	1,389人 (100%)	24人 (1.7%)	1,232人 (88.7%)	133人 (9.6%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
 (主な進学先) 広島修道大学大学院、広島大学大学院、大阪教育大学大学院、同志社大学大学院、鳴る門教育大学大学院 など
 (主な就職先) 鹿島建設、アイリスオーヤマ、TOPPAN、エネコム、西日本旅客鉄道、ニトリ、広島銀行、東京海上日動火災保険、住友不動産、株式会社中電工、株式会社ドコモCS中国、日本年金機構、国立病院機構、中国四国博報堂、国家一般職、広島県職員、広島市職員、広島県・広島市公立学校 など

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
商学部	327人 (100%)	280人 (85.6%)	33人 (10.1%)	14人 (4.3%)	0人 (0%)
人文学部	279人 (100%)	242人 (86.7%)	24人 (8.6%)	13人 (4.7%)	0人 (0%)
法学部	214人 (100%)	178人 (83.2%)	24人 (11.2%)	12人 (5.6%)	0人 (0%)
経済科学部	251人 (100%)	208人 (82.9%)	28人 (11.2%)	15人 (6.0%)	0人 (0%)
人間環境学部	119人 (100%)	91人 (76.5%)	16人 (13.5%)	12人 (10.1%)	0人 (0%)
健康科学部	163人 (100%)	143人 (87.7%)	14人 (8.6%)	6人 (3.7%)	0人 (0%)
国際コミュニ ティ学部	163人 (100%)	119人 (73.0%)	36人 (22.1%)	8人 (4.9%)	0人 (0%)
合計	1,516人 (100%)	1,261人 (83.2%)	175人 (11.5%)	80人 (5.3%)	0人 (0%)

（備考）中途退学者の主たる要因は経済的な事情や進路変更等である。
経済科学部から法学部に1名転部した学生がいたため、該当学生数分を転部元の学部において入学者数を減らして転部先の学部において入学者数を増やしている。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>（概要）</p> <p>本学では、開講する全ての科目について、担当教員にシラバスの作成を義務付けている。シラバスの作成方法や記載する事項を示した文書に、記載見本を付けて、担当教員に配付している。</p> <p>記載必須事項は、授業題目、授業の概要、学習の到達目標、授業計画（授業回数分すべてを記載）、授業外学習の課題、履修上の注意事項、成績評価の方法・基準、オフィスアワー及び質問・相談への対応である。また、テキストや参考文献は任意記載事項であるが、少なくともどちらか一方を記載するようにしている。実務経験のある教員による授業科目については、授業の概要において授業に関連する実務経験を記載している。</p> <p>なお、シラバスの記載内容のチェックを各学部等において実施している。 シラバスは Web サイト上で公表しており、次年度のシラバスは毎年3月下旬の公表である。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>（概要）</p> <p>成績評価の方法及び成績評価基準については「広島修道大学及び広島修道大学大学院における成績評価に関する規程」において以下の通り定めており、それらに基づき厳格かつ適正に単位認定を行っている。</p> <p>成績評価の方法は、試験、授業中に実施する小テスト、提出物・成果物（レポートなど）、プレゼンテーション・コンピュータの操作、対話・口頭試問、その他、シラバスに明記した方法などがあり、すべての科目においてあらかじめシラバスに明示することにより学生に周知している。定期試験及び追試験については別途「広島修道大学及び広</p>

島修道大学大学院試験細則」を定め、試験期間を定めて実施している。

成績評価は100点満点の素点で行い、素点をAA、A、B、C、Dの5段階の評語で表し、Dを不合格、成績評価が不能の場合はXとしている。5段階の基準は、100～90点：AA、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：Dである。

なお、成績評価方法や成績評価基準については、成績発表ガイダンスにおいても学生に周知している。

大学全体の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、学部・学科ごとに特色を反映した学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。各学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシー及び卒業要件については『学修ガイドブック』において公表し、周知を図っている。

卒業認定にあたっては、卒業要件を学則及び各学部履修細則で定め、修得単位及び在学期間に基づき、教授会において卒業判定を実施し、卒業認定者を決定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
商学部	商学科	124 単位	有・無	44 単位
	経営学科	124 単位	有・無	44 単位
人文学部	人間関係学科 (社会学専攻は 2024 年度学生募集停止)	124 単位	有・無	44 単位
	社会学科	124 単位	有・無	44 単位
	教育学科 (2024 年度以降生)	124 単位	有・無	48 単位
	教育学科 (2023 年度以前生)	124 単位	有・無	44 単位
	英語英文学科	124 単位	有・無	44 単位
法学部	法律学科	124 単位	有・無	44 単位
経済科学部	現代経済学科	124 単位	有・無	44 単位
	経済情報学科	124 単位	有・無	44 単位
人間環境学部	人間環境学科	124 単位	有・無	44 単位
健康科学部	心理学科	124 単位	有・無	44 単位
	健康栄養学科	124 単位	有・無	46 単位
国際コミュニティ 学部	国際政治学科	124 単位	有・無	44 単位
	地域行政学科	124 単位	有・無	44 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：Web サイト上で公表 https://www.shudo-u.ac.jp/information/kouhyou/education.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：Web サイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/kouhyou/land.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
商学部 *1	商学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	経営学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
人文学部	人間関係学科 (社会学専攻) *2	780,000 円	—	220,000 円	その他：施設設備資金
	社会学科 *5	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	教育学科 *1	810,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	英語英文学科 *1	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
法学部	法律学科 *1	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
経済科学部 *1	現代経済学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	経済情報学科	810,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
人間環境学部 *1	人間環境学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
健康科学部 *3	心理学科	820,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	健康栄養学科	900,000 円	220,000 円	220,000 円	
国際コミュニティ学部 *4	国際政治学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	その他：施設設備資金
	地域行政学科	780,000 円	220,000 円	220,000 円	

*1 2016 年度以降に入学した学生

*2 2016 年度以降に入学した学生 (2024 年度より学生募集停止)

*3 2017 年度以降に入学した学生のみ (2017 年度開設)

*4 2018 年度以降に入学した学生のみ (2018 年度開設)

*5 2024 年度以降に入学した学生のみ (2024 年度開設)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>修学上の問題などを相談できる身近な存在となるチューターを配置している。1・2 年次生は所属学部・学科の専任教員が、3・4 年次生はゼミナール指導教員がチューターとなることを基本としている。学生生活のすべてにわたって良きアドバイザーとなり、よりよい学生生活を実現させることを目的としている。</p> <p>また、学習支援体制として、学習支援センターを設置し、3 名の学習アドバイザーがレポートやレジュメの書き方、時間管理、英語の学習等について個別に相談・質問に応じている。2024 年度は、対面で実施し、約 540 名の学生が利用している。また、学習支援センター主催の試験準備やレポート作成、英語多読、TOEIC 等に関するワークショップ・講座についても、対面で年間 13 種 20 回実施し、延べ 64 名の学生が参加した。</p> <p>学習支援センターではその他、総合型選抜、学校推薦型選抜（公募（専願）・指定校・附属校（専願））の合格者を対象に、キャンパス学習と通信・課題学習（オンライン学習含む）の二つを軸とした入学準備学習プログラムを実施している。特に通信・課題学習では、各学科独自の課題（読書、レポート等）に加え、学習支援センターから日本語・英語に関するオリジナルのワークブックを課している。</p> <p>入学後の支援では、早期合格者のうち、入学準備学習において通信課題が低得点、キャンパス学習を無断欠席、等の条件に該当する学生に面談を行い、当該学生自身の振り返りを促し、必要に応じて学習支援を行う。学習状況や生活パターンの改善を促し、学習支援を行うことで主体的学習者へと導くことを主な目的とする。</p> <p>奨学金については、日本学生支援機構や地方公共団体などの奨学金制度に加え、本学独自の奨学金制度を設け、経済的理由により修学が困難な学生や、家計の急変によって学業の継続が困難になった学生などを対象に、奨学金の貸与・給付を実施している。また、学業成績が優秀な学生を支援するスカラシップ制度も設けている。</p>

さらに、日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者となっている者については、入学手続き時に入学金の納入と、「大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免の対象者の認定に関する申請書（A様式1）」、「大学等奨学生採用候補所決定通知の写し」及び「入学手続金猶予申請書（本学所定の様式）」を提出することで前期授業料の納入を猶予している。猶予した前期授業料については、5月下旬ごろに減免額を差し引いた額の納付書を送付し、6月中旬を期日として納入する。また、入学手続き時に納入した入学金については、前期授業料の納入期日より前に減免額を返還することで対象者の経済的な負担の軽減を図っている。

また、「資格取得スカラシップ」、「課外活動スカラシップ」、「国際交流スカラシップ」など、学術・芸術・社会・教育・文化活動等の分野において、模範となる成績もしくは貢献をした学生・団体を表彰する学長表彰制度も設けている。

<https://www.shudo-u.ac.jp/lifesupport/scholarship/index.html>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

本学は、低学年からのキャリア形成支援をベースとし、その先に就職支援を位置づけたプログラムを展開している。

キャリア形成支援では、キャリアデザイン科目が挙げられる。1年次配当科目の「大学生活とキャリア」では、卒業後の人生観や労働観など将来にわたるキャリア・ビジョンを描くことの重要性や学生生活のあらゆる経験、場面がキャリア形成の場面であることを学修する。2年次から4年次配当科目の「広島の実業承継を学ぶ」は、誰もが将来、企業や組織の後継者となり、事業を承継する機会があることを学修し、経営者としてのキャリアを考えることを目的としている。また、資格取得を支援するキャリア支援講座や広島県内の企業を巡る企業見学バスツアー等を実施している。

就職支援では、進路相談や書類添削、模擬面接等の個別面談をはじめ、就職ガイダンスや業界・企業研究セミナー、筆記試験対策のeラーニングなど、体系的な就職支援プログラムを開催している。公務を含む企業・団体との関係構築に注力しており、2024年度は延べ約620社が参加した学内合同企業説明会を開催した。加えて、就職活動にかかる交通費の一部を補助する経済的支援も行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

保健室では休養室を設置し、看護師の専任2名と臨時職員1名が応急処置や健康相談、障がい者の生活支援などに対応している。また非常勤内科医4名、婦人科女医1名をおき定期的な健康相談日と、管理栄養士による栄養相談日の開設、定期健康診断および健診事後措置として、血圧計や体成分分析装置(InBody)などの測定機器を用いて健康指導を行っている。また感染症予防をはじめ健康講座や禁煙支援など健康教育を実施予定である。正課中や課外活動中、通学中など大学管理下とみなされる状況で発生したケガの治療費を給付する制度を設けており、給付申請の対応窓口となっている。学生対応に当たる教職員に対して、安心安全な対応ができるよう救急法等の啓発に取り組んでいる。

学生相談室では、専従の臨床心理士2名の他に、非常勤の精神科医1名と臨床心理士4名を配置し、心身のケアが必要な学生に対しカウンセリングを中心とした支援を行っている。また、学生対応に当たる教職員に対してコンサルテーションを行ったり、学生対応に関する研修機会を提供したりしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：Webサイト上で公表

<https://www.shudo-u.ac.jp/information/kouhyou/education.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F134310109866
学校名 (〇〇大学 等)	広島修道大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 修道学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		659人（ 37 ）人	633人（ 38 ）人	688人（ 53 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	356人	337人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅱ区分	164人	164人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅲ区分	102人	94人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	37人	38人	
区分外（多子世帯）	0人	0人		
家計急変による 支援対象者（年間）				-人（ - ）人
合計（年間）				688人（ 53 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	15人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当)	11人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	13人	人	人
計	39人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、 高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2 年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	19人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	69人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	69人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。